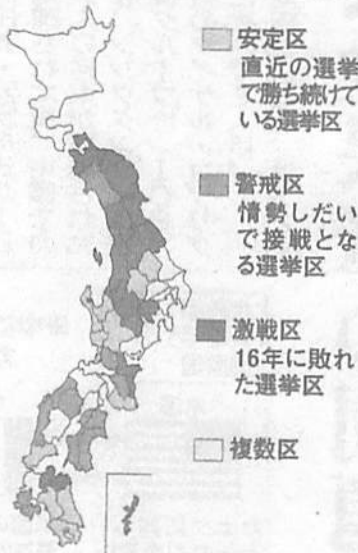


参院1人区 自民、足場固め

勢力維持へ「警戒・激戦区」に選対役員配置

2018.12.14 朝日

参院選1人区の自民党の位置付け



来年夏の参院選の焦点となる32の「1人区」をめぐる、自民党が対処方針を固めた。前回の選挙で落ちた11選挙区に加え、接戦が予想される10選挙区に人員を重点配置し、勢力維持を狙う。対する野党は候補者一本化で対抗したい考えだが、調整は難しい。

自民党は過去の選挙結果から、1人区の位置づけを「安定区」「警戒区」「激戦区」と分類。12日の選挙対策会議では、警戒区(10選挙区)と激戦区(11選挙区)に選対役員を担当議員として置く方針を決めた。最も厳しい「激戦区」は、東北5県や三重、大分など前回の2016年参院選で敗れた選挙区。議席奪還に向けて党本部のてこ入れを強めている。

「警戒区」は、第1次安倍政権への逆風が吹いた07年参院選で負けた奈良や佐賀など。前回は勝ったものの接戦だった愛媛を含めており、取りこぼしを防ごうという狙いだ。

自民党は13日までに32の1人区のうち20選挙区で公認を決めた。党関係者は「世論の風向きは来年5月の連休明けにならないと分からない」と指摘。「激戦区」と「警戒区」は情勢次第で敗れる可能性があるため、資金面でも手厚く支

える考えだ。一方、分厚い保守地盤を持つ山口など勝ち続けている11選挙区は、党本部として特段の対応を取らない「安定区」とした。

1人区への対応を強めるのは、結果が政権運営に影響を与えかねないためだ。16年に敗れた「激戦区」を取り返せば、与党と改憲勢力で憲法改正発議に必要な

野党、一本化に遅れ

1人区では、野党の票が割れては自民党と対抗できない。前回は旧民進党が主導して、全ての1人区で候補者の一本化に成功。その結果、11選挙区で勝利し、13年の2勝から善戦した。

今回も立憲民主や国民民主、共産など野党5党は全ての1人区で候補者の一本化をめざす。立憲の枝野幸男代表は「一騎打ちの構図を作り、勝てる所がたくさん出てくれば、大きく『安倍1強体制』を変えたい」と意気込む。

参院での3分の2の議席維持が見えてくる。逆に前回は勝った「警戒区」を落とせば3分の2を確保できない可能性が強まり、政権運営の失速は避けられない。

甘利明選対委員長は1日の党会合で「野党は統一候補を1人区でみんな立ててくる。油断なきように」と引き締めた。

ただ、調整は遅れている。1人区のうち改選を迎える現職がいるのは新潟、長野、沖縄。新顔の擁立が急務だが、公認したのは立憲が栃木、国民が長崎、鹿児島にとどまる。大分や三重では無所属の新顔を統一候補にする動きもあるが、共産を含めた具体的な調整はこれからだ。社民党の又市征治党首は13日の記者会見で「民進が分裂し、立憲と国民の確執もあって協議がうまくいっていない」と漏らした。(磯部佳孝、山岸一生)

2018.12.14. 朝日